

スも導入され有効であった。

【将来に向けて（レガシーとして）】

今大会のキーワードは「レガシー」であったが、医療の視点からのレガシーを指摘すると、いくつか挙げることができる。

医療調整本部は24時間体制で対応できた。ポリクリニックもオリンピックの医療を側面から支えた。

IOCのアンケート調査（対象は競技視聴者30億人）では、65%が東京オリンピックは「成功した」と回答した。第5波というコロナ禍での開催を考慮すると、全体を通してうまくいったのではないかな。

コンソーシアムを結成し、叡智を結集して最適な医療体制を構築したプロセスは、さまざまな成果物の発信と共にレガシーと言える。組織委員会と自治体が別個に組織されてもその連携をうまくとっていくことは、全ての大規模イベントに関わってくる。それぞれの部署が専門的な知識を持ち寄って、情報を共有するプロセスもレガシーである。

【質疑応答】

会場では3名から質問があった。心肺停止事例2件についての質問では、AEDで救命できたことが示された。また、過去のサミットで設置されたモバイルICUについては、今回は準備しなかったが、都内の医療機関では即応体制が構築されていたと説明された。

また、今回のようなたくさんのレガシーを次に活かし、質を高めていくための準備についての質問に対しては、不測の事態が必ず発生すると想定し、想定外にも対応できるような準備が重要であるとした。

最後に救急医のサブスペシャリティについてスポーツ医が必要ではないかとの意見が出たが、これには賛同された。即ち、わが国ではスポーツ医はアスリートのけがを想定しているため、整形外科医が中心である。一方、大規模イベントでは多数傷病者や熱中症への対応は整形外科の専門性では対応できないことがあるので、救急医はスポーツ外傷の知識も必要と答えられた。

非常に明快なスライドと歯切れの良い語り口は、説得力のあるものであった。対面方式ではなかったものの、猛暑期間中の大規模（世界的）イベントということで関心の高いテーマについて多くの知見と示唆をわれわれに与えてくださった。今年は3年ぶりに北海道マラソンが実施されるが、国内のマラソン大会では唯一の夏季開催であるので、今回のレガシーが有効に活用されることを期待したい。

改めて研修会の開催に関わった関係各位に感謝申し上げます。



「応急手当WEB」「救急医療啓発パンフレット」へのリンク依頼について

◇救急医療部◇

当会ホームページでは急病・急な症状時の対応を紹介する「応急手当WEB」、救急医療機関の適切な利用について理解を深めてもらう「救急医療啓発パンフレット」を掲載しております。

これらの情報をより一層周知することにご協力いただけます医療機関におかれましては、自院ホームページに下記掲載URLへのリンクをお願いいたします。

なお、リンク掲載後のご連絡は不要ですが、今後の連携強化のため、リンクのご一報をいただければ幸いです。

●応急手当WEB

<http://www.hokkaido.med.or.jp/firstaid/>

●救急医療啓発パンフレット

<http://www.hokkaido.med.or.jp/hokkaido/ambulance.html>

連絡先：北海道医師会事業第四課

TEL 011-231-1727 FAX 011-210-4514 E-mail 4ka@m.douji.jp